



大谷木地内から鎌北湖方面を望む  
昭和42年ごろ（柴下直<sup>ただし</sup>さん提供）

昭和42年ごろ、大谷木地内から鎌北湖方面を見た写真です。当時の道路は舗装されておらず、のどかな雰囲気の中を路線バスが運行されていました。現在は、道路も舗装されガードレールも設置されていますが、のどかな景観は、そのまま残されています。



現在の風景

募集中

昭和60年代ごろまでの昔の写真を募集しています。ご提供いただける方は、役場秘書広報課広報広聴係 ☎(295)2112内線332までご連絡ください。

徒然歳時記

ぼたん  
牡丹



昔から美しい女性のことを花にたとえて『立てば芍薬、座れば牡丹、歩く姿は百合の花』といひます。芍薬は、すわりと伸びた茎の先端に美しい花を咲かせることから「立ち姿の美しい女性」を連想させます。牡丹は枝分かれした横向きの枝に花をつけるため、「美しい女性が座っている」ように見えます。百合は、しなやかな茎の先にややうつむき加減に花が咲き、風を受けて揺れる様子から「女性が優美に歩いている」ように見えるというのです。この言葉は、姿かたちだけでなく、立ち居振る舞いも美しい人のことを言い表しているのでしょう。この3つの花は、牡丹、芍薬、百合の順番で咲きますが、これらは、まさに座っている美人が立ち上がって歩き出すという流れと重なります。

ところで、牡丹の花言葉「王者の風格」は、百花の王と呼ばれる牡丹の薄い花びらを幾重にも重ねた大きく品位ある花に対して与えられている言葉だそうです。このほか「高貴」「恥じらい」などの花言葉もありますが、英語ではピオニーと呼ばれています。ピオニーには、美しい妖精ピオニアが魔法をかけられ千の花びらをもつ花に変えられてしまったという物語が伝えられているそうです。

もうすぐ5月です。牡丹の花もそろそろ見ごろを迎えます。町内でも新しき村などで牡丹を見ることができます。皆さんも今年のゴールデンウィークは、壮麗な牡丹の花を見に出かけてみてはいかがでしょうか。

編集後記

カメラ片手に取材に行き、たくさんの人と出会い、支えられ、多くの感動と人の心の温かさを知り、原稿の締め切りに追われ、頭を悩ませた日々が懐かしく思い出されます。この貴重な経験を生かして新しい部署でもがんばっていこうと思います。(Y)

□広報もろやまは、役場ホール、両公民館、図書館、保健センター、教育センター、総合公園体育館、歴史民俗資料館、福祉会館に置いてあります。

わがやのアイドル



高野 耀斗<sup>あきと</sup>くん  
(1歳)

今月で1歳だね。日々大きく成長しているので、とても楽しいよ。早く歩けるようになって、家族3人でお散歩こうね。



川合 奏良<sup>あきと</sup>ちゃん  
(9か月)

いつも元気いっぱい!! 家族みんなが奏良ちゃんの笑顔に癒されて、元気をもらっています。

ずっと、ずっと仲よし家族でいようね♡

■秘書広報課では「わがやのアイドル」を募集中です。

申・問 役場秘書広報課 ☎(295)2112内線332

人口 36,084人 (-60人)

【男 17,975人 (-36人) 女 18,109人 (-24人)】

世帯 15,766戸 (9戸)

※平成24年4月1日現在(カッコ)内は前月比



植物油インキを使用しています。